

2023 年度 (令和 5 年度) 学校評価自己評価表

芦田	中学校区	校番 41	福山市立 福相小 学校
最終更新日		2023年(令和5年)4月1日	

I 福山市	<p>ミッション 福山に愛着と誇りをもち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。</p> <p>ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。</p>
-------	---

II 中学校区	
前年度学校関係者評価の主な内容	<p>児童生徒の現状</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた状況と温かい雰囲気の中で、生き生きと活動をしている。 ・基礎学力は概ね定着しており、学習に対する意欲は高い。ペア、グループでの活動の充実により、積極的に発表できるようになっている。また、協働的に課題を解決しようとする意欲も出てきている。 ・友だちの意見から自分の考えを深めることには課題がある。 ・9割前後の児童生徒が「友だちのよいところに気付いた。」と肯定的に捉えている。しかし、「自分にはよいところがある。」の肯定的評価の割合は、小中によって異なる。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校だよりや行事紹介写真資料などを当日配布し、学校の取組や近況を具体的に説明した。 ・校区内の3校を順に会場とし、評価委員全員にそれぞれの学校を見ていただいた。 ・教育関係用語をわかりやすい言葉に置き換えて、説明した。 ・校区内児童生徒が伸びるようそれぞれに工夫をして、教育活動に当たってもらいたい。 ・地域の者も協力していきたい。学校と保護者・地域住民との連携を継続してほしい。 	<p>育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)</p> <p>課題解決・意思決定、コミュニケーション、思いやり</p> <p>めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)</p> <p>ふるさと芦田に愛着と誇りをもち、未来を切り拓き、たくましく生きる児童生徒</p> <p>中学校区として統一した取組等</p> <p>「児童生徒主体の学び」の創造</p> <p>○取組推進のための校区全体研修会による活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しい授業づくり(主体的・対話的・深い学び) ・考え、議論する道徳の授業づくり(理論研修・教材分析・授業研究会) ・学力・生徒指導・体力向上(調査等の分析・改善策の検討・取組実施) ・SDGs教育の推進(教育活動への位置付け・教科や学年を超えた枠組の構築)

III 自校																				
ミッション	地域に誇りをもち 目標をもって 主体的に活動する子どもの育成																			
学校教育目標	「自ら学び 心豊かで 生き生きと活動する子どもの育成」 ～ 自主・協働・創造 ～																			
現状	<p>〈児童生徒〉 まじめに学習に取り組む児童が多く、各種学力調査では学習に対する意識は高く、基礎的な学力は定着しているが、活用できるまでの知識となっていない。児童アンケートから、自分に自信がもてず、結論先行や理由をつけて考えを表現することに苦手意識があるため、学びのよさの実感までには至っていない。また、協働的なかわりが苦手で、困難に直面するとあきらめてしまったりする児童もいる。そこで、ペア学習やグループ学習を取り入れ、振り返りの場を大切にすることで、主体的・対話的で深い学びにつながる授業を目指している。また、自己肯定感を高めるためのふるさと学習等に取り組んでいる。</p> <p>〈授業〉 主体的な学びにつなげるために、SDGsと関連づけた教科横断的なカリキュラムマップ編成と単元開発を行ってきた。また、児童が自ら選んだり決定したりする場、振り返りの場を大切に、授業改善を進めてきた。授業に進んで参加し、友達の発表をしっかりと聞く等、学習に対する意識は高まってきた。今後は、学力の定着に向けて、課題解決型の学習課題の設定、表現活動の充実、振り返りの場を大切に授業を目指すことで児童が主体的に学ぶ授業改善を図っていく必要がある。</p>																			
育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	<table border="1"> <tr> <td>課題解決・意思決定</td> <td>コミュニケーション</td> <td>思いやり</td> </tr> <tr> <td>小1・2</td> <td>課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしたりしながら表現している。</td> <td>自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。</td> <td>学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。</td> </tr> <tr> <td>小3・4</td> <td>課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしたりしながら解決している。</td> <td>友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。</td> <td>学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。</td> </tr> <tr> <td>小5・6 中1</td> <td>自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。</td> <td>話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。</td> <td>学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、誰に対しても親切にしている。</td> </tr> <tr> <td>中2・3</td> <td>自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。</td> <td>多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。</td> <td>地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心もち、その気持ちを行動や言葉に表している。</td> </tr> </table>	課題解決・意思決定	コミュニケーション	思いやり	小1・2	課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしたりしながら表現している。	自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。	学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。	小3・4	課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしたりしながら解決している。	友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。	学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。	小5・6 中1	自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。	話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。	学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、誰に対しても親切にしている。	中2・3	自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。	多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。	地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心もち、その気持ちを行動や言葉に表している。
課題解決・意思決定	コミュニケーション	思いやり																		
小1・2	課題に対してあきらめずに取り組み、類似点・相違点を見つけたり、理由付けをしたりしながら表現している。	自分の考えをはっきりと、最後まで伝えている。	学校や地域の人に自分から声をかけている。身近な人に温かい心で接し、親切にしている。																	
小3・4	課題に対して見通しをもち、他の考えと比較したり、それを基に新たな発見をしたりしながら解決している。	友だちの考えとつなげたり、比較したりしながら話している。	学校や地域の人と自分から関わろうとしている。相手の気持ちを考えて、進んで親切にしている。																	
小5・6 中1	自ら課題を見つけ、複数の情報を基に、類推したり、深化させたりするなど、工夫しながら解決している。	話し手の意図を考えながら聞いたり、相手の意見を受けて自分の考えを話したりしている。	学校や地域をよりよくするために行動している。相手の立場に立ち、誰に対しても親切にしている。																	
中2・3	自らの考えをもち、既習事項、収集した情報や生活体験などを根拠にして、比較、分類、関連付けて物事を考え、解決している。	多様な他者との意見の違いを認め、思考・判断したことをわかりやすく表現したり、議論したりしている。	地域や社会との関わり合いを通して、人としての思いやり、周りへの感謝の心もち、その気持ちを行動や言葉に表している。																	
めざす子ども像	<p>主体的に学び 学びのよさを実感する子どもの育成</p> <p>～ かわり合い 学び合い 学びを見つめる 子ども主体の学びづくりを通して～</p> <p>①表現、対話、振り返りの充実を通した子ども主体の学びづくり</p> <p>②SDGs(国連持続可能な開発目標)と関連づけた教科横断的なカリキュラムマップ編成と単元開発</p>																			
研究	<p>テーマ</p> <p>内容等</p>																			
めざす授業の姿	<p>①児童の疑問、興味関心から解決したい思い(学習課題)を大切に授業</p> <p>②児童が表現する場、協働して考える場を大切に授業(ペア、グループ活動)</p> <p>③児童が見方・考え方を深める問い(発問)やしかけがある授業</p> <p>④児童が学びを自己認識したり、学びのよさを実感したりする、振り返りの場がある授業</p> <p>⑤児童が自ら選んだり決定したり、児童に任せる場を大切に授業</p>																			

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)			最終評価(2月末)				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価
2	学びのよさを感じ、主体的に学ぶ児童の育成	★	見直し	主体的な学びにつながる授業づくりを通して、児童が自分の学びを見つめ、学びに向かう意欲を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童の疑問、興味関心から解決したい思い(学習課題)を大切に授業づくりを行う。 思考を表現し、協働して考える場(ペアワーク、グルーブワーク)の工夫。 学びを振り返る場の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> 「主体的・対話的で深い学び」に関する質問7項目の肯定的評価平均75%以上 「授業で考えることは面白い」肯定的評価85%以上 「結論先行・理由をつけた話し方をしている」肯定的評価80%以上。 								
5	自分に自信を持ち、自他を尊重する心の育成	★	する意欲も出てきている。	道徳教育・芦田スタンダードの定着を通して、自己肯定感の向上と思いやりの心を育む。	<ul style="list-style-type: none"> 「考え・議論する道徳の授業」づくりを通して、児童の道徳性を養う。 芦田中学校区スタンダード「時間を守る、礼儀正しく、学校を美しく」を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分にはよいところがある」肯定的評価85%以上 芦田スタンダード(挨拶、服装、掃除)の達成率を90%以上 								
1	健康な体づくり、体力づくりの推進		見直し	体を動かす楽しさを感じ、進んで体力づくりに取り組む意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が企画する学級遊びを定期的に仕組み、運動と集団での遊びに対する興味関心を高める。 児童が運動に興味を持ち、運動量を確保する授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「1日1回以上外遊びをしている」80%以上 「運動(体育の授業や体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好き」80%以上 								
2	ふるさと芦田に愛着と誇りをもつ児童の育成		見直し	SDGs(国連持続可能な開発目標)を意識したESD教育の推進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 地域人材の活用や地域の教材化を図る。 た教育課程を編成する。 生活科・総合的な学習の時間で、SDGsの目標を意識し、教科横断的な単元構成とカリキュラムマップ編成を行う。 2025年(令和7年)の世界ハラ会議に向けた単元開発を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域での活動、地域の方との活動は楽しかった」90%以上 SDGsの目標(福祉、エネルギー、まちづくり、作る責任・使う責任、平和など)世界ハラ会議に向けた単元開発 								
3	教職員の元気、段取り力、組織力の向上		継続	教職員の段取り力の向上と子ども向き合う時間を増やす。	<ul style="list-style-type: none"> 目標の退校時刻を設定し、時間管理の意識改革を行う。 1週や月を見通した行事や授業の準備を行い、教職員の段取り力の向上につなげる。 組織としての取組を進め、組織力の向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務時間が月45時間以内の教職員100% 毎週1回以上の定時退校日を設け、実施できた教職員95% 時間外勤務時間が年360時間以内の教職員80% 								

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	達成度	評価基準
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。